

12月定例議会の主な動き

公共事業

八ツ場ダム工期延長 水没住民の支援策強化

八ツ場ダム(長野原町)の工期が5年延期され、完成時期が2015年となったことに伴い、川原湯温泉街などの水没地区住民の生活再建が大きく遅れることが懸念されています。

これを受け、水没地域への支援策を求めた角倉邦良議員(4面写真の一番左)の質問に対し、県は、温泉施設改修費への利子補給などの支援策を行うと回答しました。

議会改革

前橋市議の政務調査費 1円以上から領収書添付

前橋市議会は、議員の調査研究費として支給される政務調査費について「1円以上」



から領収書添付を義務づける条例案を可決しました。

群馬県議会では、後藤かつみなど若手議員の主張が受け入れられず、「1万円以上の支出」となっていますが、県都の動きが県議会での抜本改革を後押ししそうです。

議会改革

委員会議事録のHP公開 を巡り議論分かれる

議会改革検討委員会において、現在非公開となっている委員会の議事録をHPで公開するか否かが議論されました。

現在、群馬県は本会議のみ公開ですが、「開かれた議会」を目指すために委員会も公開すべきという主張に対し、自民党が「費用対効果から疑問」と反対したため議論がまとまらず、結論は持ち越しとなりました。しかし、全国的には38都道府県が既に実施しており、公開は当然の流れと言えます。

行 革

県民局の見直しを検討

県民局は、地域事務所同士の横の連携や、地域のことは地域で意思決定できる行政を目指し、平成17年度から県内5地域(中部、

西部、東部、沼田、吾妻)に各地域事務所を束ねる形で設置されています。

しかし、県当局は、「横の連携にこだわった結果、事務の効率性が損なわれた」として、従来の「縦割り組織」に戻していく方向で見直しを検討していることを明らかにしました。

「縦割りの弊害」を打破すべく、鳴り物入りで導入された県民局ですが、わずか3年で方針転換することになりそうです。



警察学校の訓練状況を視察調査(右が後藤)